

(8面から)

2016年リオデジャネイロパラリンピック大会の日本代表選手に内定していたシンボル選手(競泳)の山田拓朗さん(人事部所属)は、6月24日、日本パラリンピック委員会の「リオ2016パラリンピック競技大会日本代表選手団第一次発表」で、正式に競泳日本代表選手として出場が決定しました。山田さんは日本代表として、そしてドコモ本部代表としてパラリンピックの舞台に上がることになります。力いっぱい応援しましょう!



この出場決定の瞬間のために、これまで練習を重ね頑張ってきました。この後もしっかりと調整を行ない、本番では良い結果を出したいと思います。そして、笑顔で帰ってこられるよう頑張ります! 組合員の皆さん、応援よろしくお願いたします

■山田選手の出場予定の競技と日程

9.9 400m 自由形 : 9.13 50m 自由形
9.12 100m 自由形 : 9.15 100m バタフライ

山田拓朗さんプロフィール



水泳を始めたのは3歳の時。13歳でアテネパラリンピックに出場、その後も北京、ロンドンと3大会連続で出場中。日本障害者競泳界の若手ホープ。



種目: 競泳
年齢: 25歳
身長: 176cm
所属分会: ドコモ本部中央分会

インタビュー: 南相馬市ボランティアセンター・鈴木敦子センター長



鈴木敦子センター長

前号に掲載した「東日本大震災」被災地取材(6・18)では、情報労連復興支援ボランティアで関わりのある、南相馬市災害復興復興ボランティアセンターも訪問した。同センターの鈴木敦子センター長にこれまでの取り組みと、これからの支援のあり方について聞いた。

帰宅の不安 払拭する取り組みが必要

取材班 情報労連の被災地支援ボランティア活動では大変お世話になっていきます。鈴木 労働組合の皆さんの結束力と行動力は、ボランティアセンターとしていつも心強く感じています。これまでのボランティア活動への参加、ご協力ありがとうございました。

取材班 小高区は七月一二日に避難指示が解除されると聞きました。鈴木 七月一二日から避難指示が解除されたことが五月末に決まりました。当初は今年四月に解除の予定でしたが、不安の声もあり延期されていました。

取材班 避難指示の後の生活環境を考えると課題は多く、すぐに帰宅を選択するのは難しい状況です。鈴木 住民の人たちが安心して戻れるよう、帰宅の不安を払拭する取り組みが必要になります。支援の内容もソフトしていくと考えており、住宅の整理が落ち着けば、住民の生活支援や、住民交流の場をつくるコミュニティの再生等、住民の安心・安全への支援が求められてくると思います。

取材班 ドコモ本部は、今年度、情報労連の南相馬市での支援ボランティアに参加し、熊本の支援ボランティアにも参加しています。ボランティアセンターとして被災地ボランティアに参加する人々に心掛けてほしいことを聞かせてください。鈴木 まず、活動に参加する人が、自身自身で健康管理を行なうこと。活動の際には、絶対、ケガ・病気になる

らないこと。それができない活動は、継続が難しくなります。そして、活動する場所は被災地であることを十分理解し、不都合なことが起こることも理解の上で活動してもらいたいと思います。現地の

人から思いもよらない言葉や行動を受ける場合もあります。そんなときも受けとめて、被災者に寄り添って活動することが大切です。現地の人とのふれあい、他のボランティアの皆さんとの交流を大事にしたいだけだと思います。取材班 お忙しいと

ズームイン 直売会で広がるコミュニケーションの輪 サポート分会

ズームイン

ドコモサポート東京インフォメーションセンターは、ドコモ代々木ビルでお客さまへ各種ご注文・サービス内容のご案内、操作の説明等のきめ細かな対応を行なっています。業務で大切なのは、お客さまとのコミュニケーションですが、代々木ビルで実施している職場のコミュニケーションを活性化するイベントを紹介し

トを紹介し、7月某日、代々木ビルの休憩室に、山と盛られたお菓子が現れました。東京インフォメーションセンター主催の森永製菓・展示直売会です。コンビニなどで売られているお菓子が、格安で買えるイベントで、普段はお菓子を食べない人も、自然に集まり、コミュニケーションの輪ができるイ



ベントになっています。今後も、仲間が集まり、楽しめる時間を、継続していく予定です。代々木ビルの皆さん、ぜひご参加ください。(明田川智士通信員)